

パイプニュース

PIPE NEWS

MESCO 三井金属エンジニアリング株式会社 パイプ・素材事業部

Vol.168

2026

HEADLINE

- 大口径配管特集
- 施工現場レポート ～MESCOの技術力を活かした大口径添架管～

パイプでつなぐ
人とみらい



MESCOは、設計から製造、施工まで一貫して対応し、大口径化が進むポリエチレン管の進化を加速させています。本特集では、そのような大口径配管の事例をご紹介します。今年の干支である午年は、情熱と行動力で道を切り開く縁起の良い年とされています。私たちもこの精神にならない、経験と技術を最大限に発揮し、積極的に新たな挑戦へと踏み出してまいります。

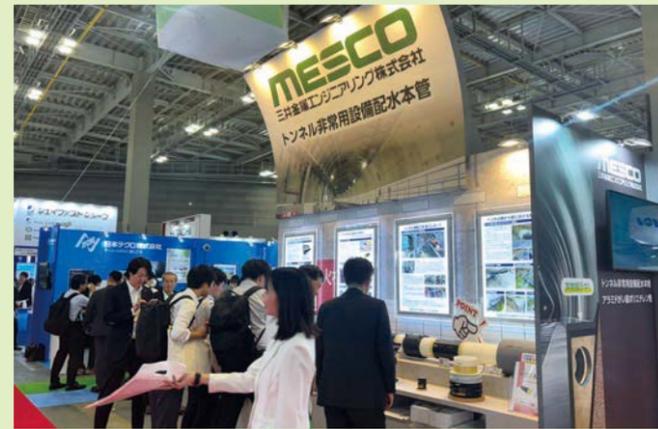
SUB HEAD

○展示会出展報告と 出展情報

資料ご請求は でクリック

展示会出展報告

2025年ハイウェイテクノフェア・広島水道展に出展しました。たくさんのご来場ありがとうございました。皆さまのおかげで、展示会を無事に盛況のうちに終えることができました。



ハイウェイテクノフェア2025

概要

2025年10月16日(木)～10月17日(金)
東京ビッグサイト 東7・8ホール

報告

パイプインパイプ工法やトンネル消火配管更新など実物展示と動画で紹介し、多くの来場者に施工事例や資料に高い関心を示していただきました。現場での具体的な質問も多く、技術力への期待が感じられる展示となりました。

広島水道展2025

概要

2025年10月29日(水)～10月31日(金)
ひろしまゲートパーク

報告

海底送水管や大口径配管の実績を中心に展示を行い、電子カタログや施工写真の活用が来場者の理解促進につながりました。官公庁や水道業界の関係者からも積極的な意見や質問が寄せられ、展示の有効性について一定の評価をいただきました。



展示会出展情報



※写真は前回開催時のブース写真です。

InterAqua 2026

開催日 2026年1月28日(水)～1月30日(金)
会場 東京ビッグサイト 南2ホール

“持続可能な企業活動を支える水ビジネス”をテーマとした産業向け水処理ソリューションの総合展示会であり、国内外の水環境課題解決を目的としたフォーラムです。再生可能エネルギー展など13の展示会が同時開催しています。

MESCO 三井金属エンジニアリング株式会社 パイプ・素材事業部

●本社・パイプ営業部 東京営業所 〒130-8531 東京都墨田区錦糸3-2-1アルカイスト15F ☎03-5610-7850(代)

●札幌営業所 ●仙台営業所 ●名古屋営業所 ●北陸出張所 ●大阪営業所 ●広島営業所 ●福岡営業所 ●大分工場

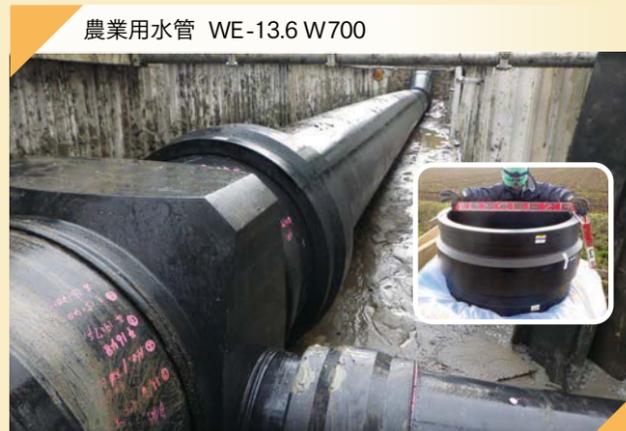
<https://www.mesco.co.jp>



〈大口径配管特集〉



海水取水管 WE-17 W450



農業用水管 WE-13.6 W700

ポリエチレン管の大口径化と耐震性への対応

軽量で耐食性に優れたポリエチレン管は、施工性や耐久性の面で従来の金属管に比べて大きなメリットを持ち、耐震性を重視したインフラ整備において高い評価を得ており、上下水道や工業用配管の分野で大口径化が急速に進んでいます。中でも、**メスコパイプ**は設計から施工まで一貫した対応が可能であり、大口径配管の施工技術に強みを発揮しています。特に、露出技術(橋梁添架を含む)においては、構造条件や周辺環境に配慮した安全・効率的な施工方法を確立し、信頼性の高いライフラインを構築します。さらに、布設場所は埋設、露出、山岳、橋梁、海底など多岐にわたり、厳しい条件下でも高い耐久性と施工性を実現し、災害に強い社会基盤づくりに貢献しています。



橋梁添架管 WEETA-13.6 W450, W300



送配水配管 WE-13.6 W450, W400



パイプインパイプ WE-13.6 W450

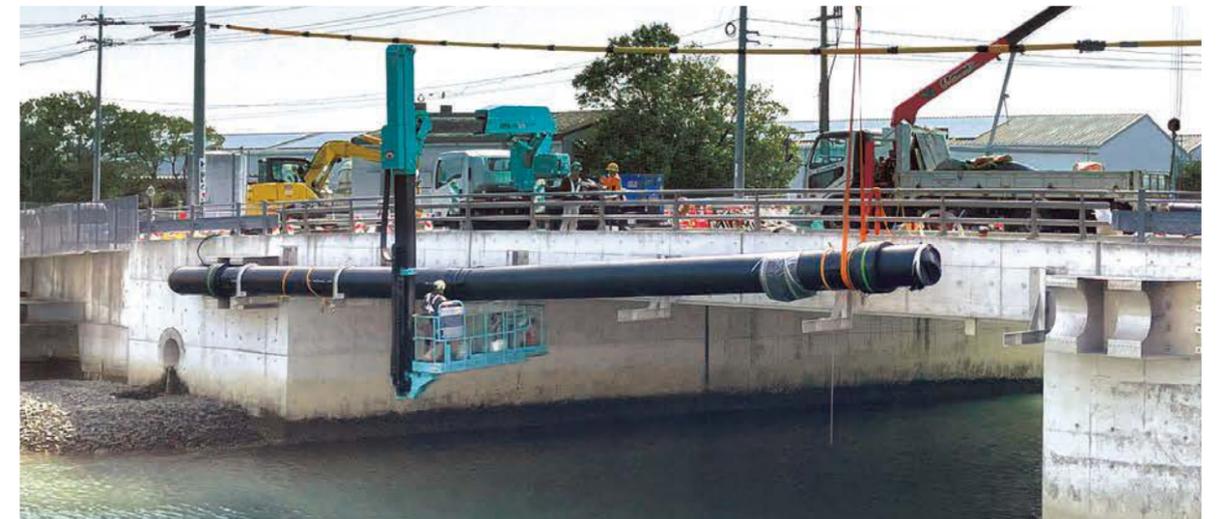


橋梁添架管 WEETA-13.6 W600



施工現場レポート

MESCOの技術力を活かした大口径添架管施工レポート(山口県下関市)



工業用水管 WEETA-13.6 W600

●未来を見据えた確実な取り組み

山口県下関市内の工業団地に向けた工業用水の安定供給体制を強化するため、既設ルートに加えて新たな工業用水管路を整備する計画が進められました。その一環として、同団地に接続する臨港道路区間に新設された橋梁(全長22m)へ工業用水管を添架する工事を実施しました。橋梁部は潮風の影響を受けやすい臨海部に位置していることから、高い耐久性と施工性が求められ、アラミドがい装ポリエチレン管が採用されました。

●施工方法と工夫

施工にあたっては、当初計画していた吊り足場による作業が現地の状況から困難となり、橋梁点検車を活用した方法へと変更しました。橋梁の歩道の上に大型バット融着機を設置し、現場で17mの長管を製作。ラフテレーンクレーンで吊り上げて所定の位置へ設置しました。周辺には架線が多く、作業スペースにも制約がありましたが、資機材や作業車両の配置を工夫し、安全第一で施工を完了しました。

●環境と性能を両立する素材選定

設置場所が海面上に近接することから、塩害による腐食リスクが高く、長期的な維持管理の負担軽減が重要な課題となっていました。そこで、優れた耐食性を備え、実績の多いアラミドがい装ポリエチレン管「WEETA-13.6」が選定されました。本管材は防食対策や定期的な補修をほとんど必要とせず、長期間にわたって安定した水輸送が可能です。また、従来の金属管に比べ軽量であるため、橋梁主要部への荷重負担を抑えられ、構造物への影響を最小限にしながら安全に設置できる点も大きなメリットとなりました。



布設後の様子

本工事では、現場の条件に確かな技術と綿密な計画により柔軟に対応し、無事に管路の布設を終えることができました。今後も、海洋・河川・山岳などの厳しい条件下においても、私たちの技術力を活かし、社会インフラを支える施工に取り組んでまいります。



バット融着

金具取付状況

記事 広島営業所 畝本

